

ぶんごわ〜るど Bungo World

『ぶんごわ〜るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報誌です。この会報では、主に、協会の活動やOB・OG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。

コロナ禍、終息せず。

昨年から始まった新型コロナウイルスの感染は、令和3年8月現在では第5波のまただ中で、全国的には毎日2万人近く、また、大分県内でも200名近くの新規感染者が報告されています。

感染の終息は見られない中ですが、昨年停止してしまった様々な社会活動も、感染対策と折り合いをつけながら再開を模索しています。昨年、すべての派遣国から一時帰国したJICA海外協力隊も、徐々に派遣が再開され、令和3年6月現在ではアフリカ地域12カ国、アジア地域8カ国、大洋州地域2カ国、欧州地域1カ国、中東地域2カ国、中南米地域2カ国、計27カ国で109名が隊員活動中、大分県からも八丁文子さんが中華人民共和国で活躍中です(別記事の活動報告をご覧ください)。

当協会でも、コロナ感染の状況を考慮しつつ、実開催やオンラインで総会準備を行った後、令和3年5月23日(日)に令和3年度の定期総会を、実参加とオンライン参加を交えた形で、無事開催することが

出来ました。今回の定期総会では、役員会改選もあり、新たな体制の元、協会の活動をいっそう盛り上げて行く所存であります。

新体制として、新たな企画として、野外バーベキュー大会を開催する予定で準備していました。このバーベキュー大会は、なかなか協会の活動から足が遠のいている子育て世代のOB、OGにも参加しやすい行事として、夏休みの思い出作りとして参加してもらえないかとの思いで企画しました。せっかく、当協会が行うのであるなら、国際的なものにして、国際交流の場としても楽しんでもらいたいと、インドネシア人技能実習生にも参加してもらい、サテイ(インドネシアの焼き鳥)やレンダン(牛肉の煮込み)を作る予定で準備を行ってきました。しかし、8月になって、コロナ感染第5波のため、開催は困難と判断し、バーベキュー大会は10月に延期することになりました。10月に延期したことで、当初、最大の目的としていた、子育て世代が参加しやすい、という目的から離れてしまうことになりました。しかし、準備期間が長くなった分、企画もうひと練りして、さらに魅力的なイベントにしたいと考えています。



実参加とオンライン併用で実施された定期総会。
今回勇退された鈴木会長と山崎副会長(リモート)
への花束贈呈も行われた。



レンダン

今回のコロナ禍で、思うように行事が出来ないといった困難に直面していますが、これを機会に、今まで行ってこなかったオンラインでの会議等も頻繁に行うようになり、密に意見交換が出来るようにな

りました。コロナ禍という困難の中で力を蓄えて、アフターコロナでは大きくステップアップしていきたいと思います。

貴州省凱里市に派遣されて

2019年度2次隊 中国・日本語教師

八丁 文子（中津市）

貴州省凱里市に再派遣されて7か月目に入りました。2019年に初めて来たときは冬で、とても寒かったのですが、2021年の8月、初めての凱里での夏を迎えています。今年は例年にない暑さだということで、何もしていなくても汗が出てくる毎日です。

ここは少数民族が人口の80%を占めていて、街中でも建物や、女性の普段着、髪形などから異国の香りがします。特に多いのが苗（ミャオ）族と侗（トン）族です。彼らはそれぞれの民族の言葉を使います。凱里方言もあるので、時々中国人同士でも



2年生 お箸の使い方（中国と日本のお箸の違い）
大豆を移すチームゲーム

意思疎通ができていません。そのせいか、私がいくら拙い中国語を話しても、外国人だと思われることはほぼありません。ただ小学生ぐらいになると、共通語教育が進んでいて、方言や民族の言葉を使っ子供が見当たらないのも現実です。

私が日本語を教えているのは凱里市から10km程離れた開発区にある高校です。家からは3.4kmありますが、学校まで行く公共交通機関がないので、よほどの大雨などではない限りは歩いて通っています。



苗族の村
入るときにお酒を飲まされる。



苗族の多く住む地域にある
苗族の銀の頭飾りをモチーフにした建物



凱里に初めて降り立った高鉄の駅から見える

ほとんどの学生が日本人を見たことがなく、私が初めて会う日本人だということでした。作文や日本文化の授業を行っています、みんな日本人の学生生活にとっても興味を持っています。現地の日本語の先生は5人で、初めは日本人がどの程度の中国語が話せ、どの程度現地の授業ができるのかを見ている感じもありました。でも、授業をしていくうちに現地の先生では補いきれない作文の授業や文法の授業をさせてもらえるようになりました。

ある日2年生の作文の授業をしている時に、全く作文を書こうとしない学生がいたので声をかけました。やる気のなさそうな嫌そうな顔をしていましたが、よくよく話を聞くと日本語の学習に初歩の段階で躓き、そのまま2年生が終わろうとしている状態

でした。彼らの意向を聞き、担当の先生にも相談し、補習クラスをすることにしたところ、作文の授業とは別人のように積極的に目をキラキラさせて参加する学生たちの姿を目にすることができました。日本語に対する自信のなさとかきりめから、やる気のない態度をとっていたようです。現地の先生は1クラス50人から70人程度を担当し、一人一人の学生を気にかける余裕は正直ありません。私がここにいることで少しでも日本語が、更には日本が好きになってくれる学生が増えるといいなと思います。中国への隊員派遣は今年度で全て終了するため、私が最後の中国隊員となります。悔いの残らないように残りの半年、活動が続けていこうと思います。



1年生の日本文化授業
こどもの日で折り紙で鯉のぼりの飾りを作成
(真ん中右は現地の日本語教師)

派遣前特別訓練を行いました

平成17年3次隊 ジンバブエ・農業機械

派遣前特別訓練 元コーディネーター **足立順一郎**

新型コロナウイルスの影響により、通常であれば2020年4月から駒ヶ根と二本松で行われるはずだった派遣前訓練が、訓練所内での密集密接の状況を回避できないということで実施できなくなりました。

訓練所がいつ再開できるかも分からず、候補者たちは非常に不安定な状況に置かれてしまいました。そこで訓練所での訓練とは別に、全国各地の自治体等に候補者を派遣し、現地のニーズを理解し問題解決のために協働するという地域実践活動形式の訓練、その名も「派遣前特別訓練」というものが企画され、その地域の一つとして別府市役所に二名の県外の候補者が入り、活動を行いました。

別府での活動の内容は、小学校での放課後学習（宿題）支援と地域の防災活動です。防災については地域の障害者の方たちにどのように避難してもらうかを計画し、避難訓練を行うというものでしたが、新型コロナ感染拡大防止の観点から実際に障害者の方たちと話し合うことができず、避難計画作りの準備までしかできませんでした。

しかし二名の候補者にとっては防災というのは初めて関わる分野であり、新たな視点を獲得するとともに障害者について理解するよい機会となったようです。

放課後学習支援については別府市立南小学校に通

い、授業中は担任の先生の補助をし、木曜日と金曜日の放課後に子供たちが学校に残って宿題をするのを見守る「宿題オウルンジャー」として活躍しました。

これもコロナがなければもっと広範囲に活動するはずでしたが、当初の予定通りには行きませんでした。そのかわり近所の学童クラブに応援に行くなど、予定にない経験もできました。

約4ヶ月の訓練期間中、二名ともプライベートでも人脈を広げ充実した別府生活を送ったようでした。コロナがなければOV会とももっと関わってほしかったのですが、残念ながら一度協力隊ナビに参加しただけでした。

この訓練を通じ、信頼関係の構築やコミュニケーションの大切さ、価値観をおしつけない、独りよがりにならない事など、多くのことを実感していただけたのではないかと思います。お二人の任地での活躍を期待しています。

今後もこのような活動が全国で行われる計画のようですので、ひょっとしたらまた大分にもどなたかが来られるかもしれません。その際はOV会としても何かしらかわっていければと思います。



今日新聞 令和2年10月12日より

我が社の技能実習生

昭和62年度1次隊 西サモア・電気工事
竹田 誠

2019年10月、弊社に2人のベトナム人がやってきました。

名前はトワとドック。年齢は、それぞれ33歳と28歳でトワは既婚者、子供が2人いる優しいパパ。ドックは独身、ベトナムに彼女がいるひょうきん者。

各々、前職は違いますが、日本で配管の技術を学ぶため来日しました。



旋盤でパイプにねじを切り込む作業をするトワ

2人は会社の近くのアパートで共同生活を送っています。

入社してもうすぐ3年、一つの節目を迎えようとしています。

今回は二人にインタビューを行い日本や大分県の印象などを語って頂きました。

さっそく始めてみましょう。(注：日本語能力の問題もあり、細かい内容は省略しております)

Q1：まず、日本に着いたときの第一印象を教えてください。

トワ：近代的な感じがした。

ドック：ネットで見たのと同じ感じ。

Q2：大分の印象はどうでしたか？

トワ：ゆったりしている。緑が多い。

ドック：人が少ない。

Q3：仕事は楽しいですか？

トワ：みんな親切に対応してくれている。仕事は

楽しい。

ドック：慣れてきた。楽しいです。

Q4：日本の好きな食べ物、嫌いな食べ物

トワ：好きなものは、日本のビール、嫌いなものは納豆。

ドック：好きなものは、みかん、梨、嫌いなものはラーメン。

Q5：休みの日は何をしていますか？

トワ：一人カラオケ。

ドック：寝てる。

Q6：日本人とベトナム人の違うところは？

トワ：日本人は良く働く。

ドック：日本人は自分の意志を通しがち。

Q7：今、一番したいこと。

トワ：ベトナムに一時帰国して家族に会いたい。

ドック：同じです。

Q8：ベトナムに帰るときに持って帰りたいもの。

トワ：炊飯器

ドック：熱中症飴

インタビューを終えて

弊社は、従業員30名に満たない小さな会社です。近年の人材不足もあり、トワとドックは貴重な戦力になっています。

一緒に仕事をする機会も時々ありますが、今回改めて二人に、日頃考えていることを聞いてみると、



脚立の上で排水管の配管作業をするドック

新しい発見もありました。

まだ、日本語のコミュニケーション不足等もあり、二人のことを理解できてないところもありますが、帰国するまでもっとコミュニケーションをとれたらと思っています。

(編集部)

今や日本の産業になくてはならない存在である彼ら技能実習生。日本での生活を楽しんで、日本を好きになって帰って行って欲しいと思います。JICAでも「外国人材・共生」の担当を新たに置き、技能実習生に対する取り組みにも力を入れて行っているようです。当協会でも、彼ら技能実習生も参加出来るような行事を企画して、地域の人々等との交流の架け橋になるような場にしたいと考えております。

行事報告

2021年

4月	協力隊ナビ (14日)	(iichiko総合文化センター 1 階)
5月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1 階) ※コロナウイルスの影響により中止
	2021年度 大分県青年海外協力協会 総会	
6月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1 階) ※コロナウイルスの影響により中止
7月	協力隊ナビ (14日)	(iichiko総合文化センター 1 階)
8月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1 階) ※コロナウイルスの影響により中止
	野外BBQ大会	※コロナウイルスの影響により10月に延期

※協力隊ナビとは？

毎月第2水曜日18:00～20:00、iichiko総合文化センター 1 階で行なっているJICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。予約は不要、無料で行なっています。お近くにお寄りの際は是非お立ち寄り下さい。懐かしいメンバーや未来の協力隊員達に会えるかも知れません。『海外協力隊』のノボリが目印です！

今後の行事予定

2021年

9月	協力隊ナビ（8日） 会報「ぶんごわーど」発行	（iichiko総合文化センター 1階）
10月	協力隊ナビ（13日） 野外BBQ大会（17日）	（iichiko総合文化センター 1階） ※ 8月実施予定を延期
	おおいたワールドフェスタ2021ブース 出店	（お部屋ラボ 祝祭の広場）
11月	協力隊ナビ（17日） 2021年ひじ産業まつり ブース出店及びパネル展示	（iichiko総合文化センター 1階） （日出中央公民館）
12月	協力隊ナビ（8日）	（iichiko総合文化センター 1階）
2022年		
1月	協力隊ナビ（12日）	（iichiko総合文化センター 1階）
2月	協力隊ナビ（9日）	（iichiko総合文化センター 1階）
3月	協力隊ナビ 2019年度2次隊 帰国隊員歓迎会	（iichiko総合文化センター 1階）

派遣隊員

2019年度2次隊（2020年12月再派遣） 八丁 文子



JICA海外協力隊とは？

JICA海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する国の事業で、1965年の発足以来、開発途上国からの要請に基づき、延べ98か国、54,459名（2021年7月末時点）の協力隊員が派遣されてきました。2020年3月には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全世界より一斉一時帰国となりましたが、2020年11月より派遣が再開され、現在は23か国91名（2021年7月末時点）の隊員が現地の人々と共に課題解決に取り組んでいます。

協力隊員の募集は、春募集・秋募集の年2回、行われています。（※2021年度秋募集は、世界規模での新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、計画的な新規派遣が困難となっており、延期となりました。）

協力隊の派遣職種は190以上あります。募集区分は「一般案件」と「シニア案件」があり、「シニア案件」では一定以上の経験・技能等が求められます。「一般案件」では、20～45歳の方は青年海外協力隊/日系社会青年海外協力隊、46～69歳の方は海外協力隊/日系社会海外協力隊、「シニア案件」では、20～69歳の方がシニア海外協力隊/日系社会シニア海外協力隊に応募可能です。『JICA海外協力隊』を協力隊員の総称としています。

詳細は、大分県青年海外協力協会（協力隊ナビ等）または国際協力機構九州センター（Tel：093-671-6311（代表））、JICAデスク大分（Tel：097-533-4021）までお気軽にお問い合わせください！

（文責：JICAデスク大分・井本）

大分県青年海外協力協会 会報

『ぶんごわーど』

令和3年8月発行 第69号

発行：大分県青年海外協力協会

URL：<https://www.facebook.com/協力隊ナビ大分県-383808184980666/>

★皆さまのご意見・ご感想、お便りをお待ちしております。

★会報では、『OB/OGは今？』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。

～いずれも問い合わせは上記URLまで～

編集後記

♪深く踏み込めば思い切り遠く飛べる 雨はやんだから急ごう♪

これは私の好きな歌の歌詞の一節です。

今は、深く踏み込んでいる時なのかも知れませんが、コロナと言う雨がやんだら思いきり遠く飛びたいと思っています。次号の「ぶんごわーど」の紙面が、いろいろな活動の活き活きとした写真が散りばめられた賑やかな紙面になっていることを願っています。

昭和63年度2次隊 長岡 健朗（フィリピン 獣医師）